

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日:2024年 1月 10日

利用者65名中52名返答

事業所名:YMCAおひさま

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	プレイルームは基準を満たしています。	1. はい89%、どちらともいえない11%	児童の年齢やプログラムに合わせて、活動の場所について工夫することを検討していきます。
	2 職員の適切な配置	法定基準の職員を配置した上で、加配の職員を配置しています。	1. はい100%	
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	設定の活動では遊具が見えないように目隠ししたり、今日の予定や荷物等の置き場はイラスト等で示す等の視覚的配慮をしています。	1. はい92%、どちらともいえない4%、わからない4%	児童の年齢や特性に合わせた環境づくりを心がけます。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日、職員が掃除や玩具の故障チェックなどを行い、安全に過ごすことができるようにしています。	1. はい98%、どちらともいえない2%	プレイルームはいつも整理整頓します。必要のない物、子どもたちが気になる物は目隠しや目の届かないところに収納することを継続していきます。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	毎回、クラス前後にミーティングを行い、プログラムの確認と振り返りを行っています。月に1度は職員全員で会議をし、クラスについて意見を出し合っています。	1. はい96%、わからない4%	
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	神戸市の実地指導での意見を受け、書類の内容改善などを行いました。		
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	神戸YMCA発達支援セミナー、関西地区YMCA合同研修、障害平等研修を行っています。		職員には各クラスの児童の特性に合った研修を受講できるように推奨します。
適切な支援の	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	面談内で保護者の方の思いとこれまでの生育歴、検査報告書、現在の様子をお聞きした上でクラス内の様子から考えられる子どものつまずき、良い面を観察し、作成しています。		
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	2~6名の小グループ活動のプログラムを行っています。その中で個別的な関わりや指導を取り入れています。また、年中・年長児童には個別指導の時間を設けています		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
提供	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	「ことば・認知」「運動」「視覚的認知と手の操作」「対人・社会性」「コミュニケーション」「生活面」「行動と情緒」「集団参加」「家族支援」「地域支援」など子どもの支援に必要な内容について記載しています。	1. はい98%、どちらともいえない2%	記載内容については、ケース検討会の内容を含め、今後も職員で話し合いながらより計画書になるように努めます。
適切な支援の提供 （続き）	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	目標や支援内容についてはご家族の方と相談しながら決定し、実施しています。	1. はい94%、わからない6%	一人ひとりの個別支援計画の内容がクラス作りに反映されるクラスのプログラム作りとなるように、職員は個別支援計画を意識するよう心がけます。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	毎月プログラム会議を全クラス設け、チーム全体で立案しています。		
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	月曜日～土曜日、開所しています。		
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	年齢、メンバーによってプログラム内容を変えています。季節的な取り組みや子ども達が興味があるものをプログラムに取り入れています。	1. はい96%、どちらともいえない2%、いいえ2%	保護者と情報を交換し、子どもたちが楽しみながら意欲を持って取り組めるプログラムを行えるよう努力します。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	クラス前にミーティングを行い確認しています。児童発達管理責任者が面談内で保護者からお聞きした内容を職員内で共有しています。		クラス前のミーティングで活動の狙いや支援内容を再確認し、保護者に伝えることを共有しています。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	クラス後すぐにミーティングを行い、各職員で気づいた点を共有しています。次回に必要な支援についても意見交換しています。		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日案および全クラスで個別記録を作成しています。	
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	全ての児童に対して半年ごとに職員間でケース会議を実施し、個別支援計画の確認を行っています。また、2～3か月ごとに保護者の方と面談を通じて個別支援計画の見直しを行っています。	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	児童発達支援管理責任者が相談支援事業所と相談し、様子を確認しています。	
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	現在医療的ケアが必要な方は通所されていません。	
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	現在医療的ケアが必要な方は通所されていません。	
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	幼稚園、保育園、小学校、他の療育機関の方々との情報共有、情報交換しています。	セルフプランの方で支援会議が行われない場合は保護者の方を通して他機関と情報交換が行えるようにします。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	状況に応じて情報共有や情報提供をできるようにしています。	
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	神戸市等が実施する福祉研修に参加しています。	職員が自ら必要な研修を受けに行けるように体制を整えます。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	幼稚園、こども園、学童と並行利用している児童が多い。放課後等デイサービスのプログラムの中で学童との交流を行っています。	1. はい58%、わからない25%、いいえ10%、どちらともいえない7%	幼稚園、こども園と並行通園している利用者が多い。これからも、神戸YMCAで行っている幼児クラス、野外活動、プール、体操、学童、児童館などを紹介し、交流の場を紹介していきます。	
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	神戸YMCAで行う発達支援セミナーやチャリティバザー(わいわいまつり)の案内をしています。		
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	毎回、支援の内容についてはお伝えし、利用者負担等については入会時や掲示にて説明しています。	1. はい98%、どちらともいえない2%	
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	2~3か月ごとに保護者の方と面談を行っています。	1. はい96%、どちらともいえない2%、わからない2%	
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアレントトレーニングを実施しました。また、毎学期(年3回)に臨床心理士による保護者のためのストレス軽減法(マインドフルネス)の「おひさま講座」を行っています。	1. はい96%、どちらともいえない2%、わからない2%	今後もペアレントトレーニングやおひさま講座を実施し、保護者に参加を呼びかけます。今年度、職員がペアレントトレーナー養成講座を受講し、複数の職員がペアレントトレーニングを実施できる体制にしています。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	クラス前後の送迎の際に幼稚園や家庭での様子、体調、クラスでの様子を確認しています。	1. はい94%、どちらともいえない6%	
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	年に3~4回の個別面談以外に必要な方はその都度子育て、発達相談を受け付けています。	1. はい98%、どちらともいえない2%	職員は子育ての経験と専門的な知識を合わせて助言をするようにしています。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	父母の会の活動の支援は特に行っていません。年に2回保護者会(おひさまCAFE)、おひさま講座などでの意見交換の時間を通して連携がとれるように心がけています。	1. はい80%、どちらともいえない8%、わからない12%	年2回の保護者会(おひさまCAFE)と年3回のおひさま講座が保護者同士の繋がりを持つ機会としても活用いただけることを案内します。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	児童発達管理責任者が発達相談や普段から要望、苦情受付を担当しています。	1. はい70%、わからない25%、どちらともいえない2%、その他3%(不満がない。子どもが不安がっている時は対応してくれている。苦情がないのでわからない。)	電話、メールの受付以外に玄関にご意見箱を設置しています。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	言葉が出なかったり、コミュニケーションの苦手さがある子には分かりやすいように視覚支援を使って情報伝達を行っています。	1. はい96%、どちらともいえない4%	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月、掲示物や手紙などで活動内容をお伝えしています。	1. はい94%、どちらともいえない4%、わからない2%	全員に周知するためにプレイルーム前に掲示すると共に声掛けをします。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人ファイルは鍵のかかっている棚に保管し、名前が記入されている書類はシュレッダーにかけています。	1. はい90%、わからない6%、どちらともいえない2%、その他2%(名札が外にあるのはどうかと思う。少人数なのでなくてもよいのでは。)	プレイルーム入口横の廊下の机の上に、名前が見えないよう名札を裏に向けた状態で置いていました。保護者の評価を受けて名札の置く場所をプレイルームの室内に変更しました。
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルともに策定し、職員間では周知しています。	1. はい89%、わからない8%、どちらともいえない2%、いいえ1%	保護者にも周知するために、必要な掲示物やお手紙等で発信します。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	職員だけの火災、地震、防犯の避難訓練と、クラス内でも子ども達と一緒にしています。	1. はい96%、どちらともいえない4%	今後も訓練を実施し、保護者の方も可能な限り一緒に訓練に参加していただきます。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	年に1回、職員研修します。全職員が障害者の権利擁護と虐待防止に関する研修を受けることにしています。		
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	プレイルームは2階にあるため、安全の為に鍵をかけています。		プレイルームの施錠については入会時に説明するように心がけます。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	アレルギー物質、食品について入所時に保護者の方に記入していただいています。特別なプログラム以外での飲食は禁止としています。プログラム中の食品使用の際には毎回保護者に確認をしています。		アレルギー対応が必要なお子さんの保護者には、毎回使用する食品について確認を行います。
6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	月に一度職員会議内でヒヤリハット事例を共有し、今後の対応を記録しています。		